

令和3年度 授業改善推進プラン 社会科 (大森第三中学校)

<昨年度の授業改善推進プランの検証>

★取り組みにおける成果と課題

3年生:	<ul style="list-style-type: none"> ○臨時休校等で限られた授業時数の中ではあったが、資料の活用や資料に基づいた意見交換などの機会をもち、資料に親しむ感覚をもたせることができた。 ○感染症対策のため、限られた回数・範囲の中ではあったが意見交換の活動を取り入れ、グループの意見をまとめて発表するなどの取組を通して表現力の伸長も図ることができた。 ○受検期に集中的に復習課題に取り組む機会をもち、3年間の学習のまとめを行うことが出来た。
2年生:	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の興味を引くような資料選定を行い、資料をもとに授業を展開した。 ○内容の理解度確認するため、授業や単元のまとめとして自分の言葉で表現させる課題や基本事項の確認問題を設定し、プリントの回収を行った。 ○感染症対策を行いながら、可能な範囲でグループでの活動にも取り組ませ、テーマに関して多角的に考え表現させることを意識した。 ○基礎的・基本的な知識の中でも特に理解度の低い部分については、小テストを行い、基準より低い点数だった生徒には補習を行った。
1年生:	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を活用するプリントの作業などで資料の読み取りに慣れることが出来てきた。 ○全体的に基礎・基本が身に付いてきているので、定着が不十分な分野の確認を継続していく。

<社会科の内容別結果の分析> (区・学習効果測定)

内容	1年生	2年生	3年生
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○「我が国の国土の様子」「我が国の工業生産」の領域では校内平均正答率が目標値を上回ったが、「我が国の農業や水産業」の領域は校内平均正答率が目標値を下回った。昨年度は目標値を上回っていた食料自給率についての問いで正答率が低下した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「世界の地域構成」「世界各地の人々と生活と環境」の領域では、校内平均正答率が目標値を上回ったが「日本の諸地域」の領域では、目標値を下回った。 ○特に日本の領域についての問題で目標値を大きく下回り、30ポイントほど下回った。 ○「世界の大陸と海洋の分布」の問題では、目標値を大きく上回り、20ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「日本の諸地域」の領域で、校内平均正答率が目標値をとともに上回った。特に、記述問題については目標値を大きく上回った。 ○「身近な地域の調査」の領域で目標値を下回った。特に地形図に基づいて国名を答える問題の校内平均正答率が目標値を7.5ポイント下回った。 ○「日本の諸地域」の「阪神工業地帯」に関する問題の校内平均正答率が目標値を大きく下回った。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○「我が国の歴史」「我が国の政治」の領域では校内平均正答率が目標値を上回ったが、「世界の中の日本の役割」の領域では目標値をわずかに下回った。昨年度は目標値を上回っていた法隆寺に関する資料の読み取りの問いで正答率が低下した。また国際連合についての問いの正答率が目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的分野の領域ではほとんどの問題で目標値を上回っている。 ○「古代までの日本」の領域では、「縄文時代～古墳時代」についてのすべての問題では校内平均正答率が大幅に目標値に達している。「飛鳥時代～平安時代」の桓武天皇に関する問題は目標値を下回った。 ○特に弥生時代の農耕の広まりと人口増加の関係についての問題では、校内平均正答率が目標値を下回り、課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の領域で、校内平均正答率が区平均正答率と目標値をとともに上回った。 ○「江戸時代」の領域で目標値を上回った。 ○「近世の日本」の領域については、目標値を大きく下回った。

<社会科の観点別結果の分析> (区・学習効果測定)

観点	1年生	2年生	3年生
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的には校内平均正答率が目標値に達している。 ○「太平洋ベルト」や「織田信長の戦い方」「明治初期の改革」「日本国憲法の三大原則」については目標値を大きく上回ったが、「品種改良」や「法隆寺」「国際連合」についての問いの校内正答率は目標値に届かず、課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に校内平均正答率が目標値を上回っている。 ○鎌倉幕府の政治のしくみや外国との関係に関する問題では、目標値を大きく上回ったが、地理的分野では大陸と海洋の分布に関する問題で目標値を大きく下回り、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○領域によって、知識・技能について定着の偏りが見られた。 ○日本の農業と、地形図について、資料をもとに答える問題では目標値を大きく上回った。 ○近世の経済や政治の仕組みに関する問題や、近代に関する問題では、知識の定着に課題がみられた。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的には校内平均正答率が目標値に達している。 ○「日本海側の気候の理解」や「我が国の工業の特色」「日本国憲法の三大原則」では校内平均正答率が目標値を上回っているが、「食の安全の確保」や「食料生産についての生産者の工夫」、「参勤交代の藩政への影響」の問いでは目標値を下回り、課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内平均正答率が目標値を上回った。 ○弥生時代の農耕と人口増加の関係について考える問題では目標値を下回ったものの、稲作伝来後の社会について資料をもとに考える問題や、渡来人についての理解を資料から考える問題等では目標値を大きく上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中部地方の農業に関する記述問題では、校内平均正答率が目標値を大きく上回った。 ○江戸時代の百姓の米作りについての記述問題でも、校内平均正答率が目標値を上回った。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的には校内平均正答率が目標値に達している。 ○「我が国の工業の特色」や「日本国憲法の三大原則との関わり」では校内平均正答率が目標値を上回っているが、「参勤交代の藩政への影響」、「食料生産についての生産者の工夫」の問いでは目標値を下回り、課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内平均正答率が目標値を上回った。 ○特に世界各地の人々が住む家のつくりについて考え、説明する問題や、稲作伝来後の社会の様子について写真資料から考える問題では、目標値を大きく上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の資料をもとに判断する問題では、校内平均正答率が目標値を下回った。

<社会科の課題と具体的な授業の改善策>

学年	課題	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○マークシートで選択する問題ではない、短答や記述形式の問題や複数の答を組み合わせる問題を求める問いに課題の残る分野が多い傾向が読み取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本となる内容(用語等)を繰り返し確認する機会を作る。(プリント、ワーク、小テスト等) ○自分の言葉で事象の分析や考察などを記述する機会を設けていく。 ○様々な問いの形に対応できる力を養う。(定期考査等の作成の工夫)
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○地理よりも歴史のほうが正答率が高いことから地理と歴史の学習理解に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特に地理においては基礎・基本となる内容をプリント等で繰り返し学習する機会を作る。 ○知識や技能の定着状況を定期考査や小テストなどで確かめる。 ○主体的に学習に取り組む教材を活用し、確実な知識の定着をはかる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○2つ以上の資料の関連を考えること。 ○領域によって知識の定着に偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業内では、資料を調べる・読み取るなどの活動を取り入れ、資料に親しみを持たせる。 ○学習内容の定着のために、既習事項の確認を適宜行っていく。また、単元ごとに学習内容を振り返りまとめる課題を出すなど、語句だけではなく語句・事象の繋がりについて生徒自身が理解を深められるよう工夫する。